

保育内容『言葉』の教材と指導法の研究

—15年間の『言葉』指導の実践とそれ以前の指導の検討 (1) お話し (絵本・紙芝居)—

A Study on Teaching Materials and Methods of Childcare Content (Verbal Skills)

平 嶋 慶 子
Keiko Hirashima

鹿児島女子短期大学

筆者は平成元年から保育原理を担当し、その授業の中で指あそびを中心に学生に実演を指導してきた。平成13年に1年生前期科目として保育内容『言葉』を担当するにあたり、保育実技習得のために指あそび、折り紙、お話し (絵本・紙芝居) 他の実演を指導して現在まで継続している。今回は足掛け22年間のお話しの発表内容の傾向と変遷を報告・分析し、保育内容『言葉』の教材と指導法を検討した。

キーワード: 保育内容『言葉』, お話し, 絵本・紙芝居, 指あそび, 折り紙

1. はじめに

幼稚園や保育所などの集団の保育の間では、家庭と同じような活動 (生活と遊び) をしているが、保育者は乳幼児を保育する際、その活動目的をより意識的に持っていることが多い。

『指あそびは活動の冒頭やお集まりの時に、幼児の注意を引いたり、集中させたり、また楽しく活動に入れるよう、どんな幼稚園・保育園でも使います。必ず授業の初めに時間を取って学生に指あそびを発表させ、全員に練習させてください。』と前任者から『保育原理』の科目を引き継いだ際にアドバイスされた。1年後期の附属幼稚園における基本実習でも指あそびや絵本の読み聞かせを学生全員が担当するため、1年前期の『保育原理Ⅰ』と1年後期の『保育原理Ⅱ』の授業のあたりに学生4人1グループで指あそびを発表させてきた。10年ほどは続けていたが、後期の『保育原理Ⅱ』の授業では附属幼稚園実習指導の内容も入れていたため、指あそびなどの発表に授業の時間を使うことが不適當だと思われた。平成10年頃より2年前期に保育内容『言葉』も担当することになり、『言葉』の領域の実技習得のより一層の充実を図るため、開講時期を1年前期に変更したのが平成13年度からである。

そこで長年に渡って保育内容『言葉』の授業を担当してきたので、この度授業内容や指導方法が適切であったか、また今後の指導に資するよう保育実技習得のための教材と指導内容を総合的に検討することとした。授業で取り扱った保育実技習得のための教材とはお話し (絵本、紙芝居など。稀にペープサートあり)、指あそび・手遊び (立って全身を使う遊びも含む)、折り紙と絵かき歌である。

今回はこれまでの授業内容の変遷を報告し、『言葉』の活動の中で比重の大きいお話し (絵本・紙芝居) を取り上げて検討する。

2. 保育内容『言葉』の授業の変遷

担当した科目と保育内容『言葉』に関する保育実技指導・発表内容の概要を説明する。

最初期

『保育原理Ⅰ』『保育原理Ⅱ』

1, 2, 3組 (初等教育学専攻) と4, 5, 6組 (幼児教育学専攻) 合同授業の冒頭に、出席番号順に4人1班に分け各クラス1班ずつ発表させた。指あそびを主としたが希望すればお話し (絵本・紙芝居) や折り紙でも可とした。

最初の数年は単に割り当てただけであったが (同一コマの中で同じ演目が重複しないように調整はした)、班によっては事前の練習や発表のための打ち合わせを省き、勢いで発表するものもあった。その状態は本人たちの実技習得にも役立たず、またその発表を見て一緒に学ぶ学生にとっても良い影響は無いので、これを改善するために平成5年度から発表演目や遊び方をレジュメに書かせ、また発表前には班全員でリハーサルを筆者に見せて指導をもらうとい

う準備をしてから発表に至るようにした。

今回の最も古い資料はレジュメを作成するようになってからの3年間(平成6年度,平成7年度,平成9年度)のものである。平成8年度はなぜかお話しの発表がなかった。発表レジュメはB4用紙1枚に各クラスから1班ずつ,計3つの演目を書かせた(写真1)^{注1)}。前述した通り,指あそびを中心にしていたので今回対象とするお話し(絵本・紙芝居)の演目数は以降の発表に比べるとかなり少ない(表1)。またレジュメ資料が散逸しており,発表班の全てが揃っているわけではないので数量データは不完全である。



写真1

保育内容『言葉』の始まり

平成13年から1年前期科目として担当した。授業のサイズが2クラス編成の1,2組と3,4組と5,6組となった。そこで発表は1回の授業ごとに同一クラスの3つの班ごとに発表内容(お話しと折り紙と絵かき歌)を割り当てた。それぞれ必ず指あそびを1つ,それに加えて①折り紙②お話し③絵かき歌を割り振り実演させた。^{注2)}レジュメは1つの班ごとに1枚作成させた(写真2)。

指あそびは必ず楽譜と遊び方の図・説明を書かせた。実演発表する・しないに関わらず2番以降の歌詞や動作・振りも載せた。指あそびの楽譜は写すことも勉強になると考えるので,手書きで書くように指導し,コピーは載せていない。お話しは題目と粗筋を,可能な限り作者名・出版社名も載せるように指導した。折り紙は角度や長さの比率が正確な折り図を描かせた。フリーハンドでも描けるように下書きの用紙は5ミリ罫線のコピー用箋を使った。絵かき歌は書き順がはっきり判るように書かせた。スペースに余裕がないので絵かき歌の楽譜は基本省くか,縮小コピーをつける場合もあった。



写真2

今回対象にした保育内容『言葉』の最も古い資料は平成13年度14年度15年度の3年間のものである(表2-①,②)。

その後1学年のクラス数や授業のサイズは現在まで変化はないが,学科の編成が専攻からコース制に変更になり,また年度によって1クラスの学生数は増減してきた。

現在の保育内容『言葉』

最新の資料は平成26年度27年度28年度の3年間である(表3-①,②)。1学年6クラス編成に変化なく,2クラス合同の授業サイズである。

最近の実技発表は全ての班が必ず指あそびと絵かき歌を実演する。それに加えてお話し(絵本・紙芝居)か折り紙を交互に割り当てて発表させている(写真3)。

ここで平成13年度から現在まで一貫して行ってきた保育内容『言葉』の授業の構成やレジュメの作成,発表までの事前指導について説明する。

- ・90分授業の前半に実技発表をする。授業の後半は理論編としてテキスト等を用い『言葉』領域の学習を行う。
- ・実技発表は毎授業ごとに3班ずつ割り当て,発表時間は1班につき約10分を当てる。この10分間を使って始まりの挨拶や班の紹介,指あそびとお話しか折り紙,絵かき歌の3つの保育実技を発表し,最後に終わりの挨拶までを発表する。内容構成(指あそびとお話しか折り紙と絵かき歌の順番)も班ごとに考える。

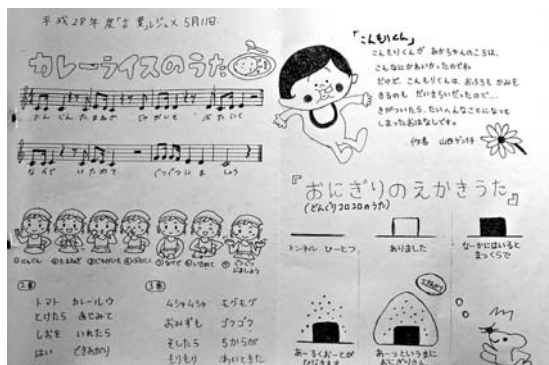


写真3

見学の学生を、その遊びを初めて遊ぶ幼児に見立てて、遊び方の説明などの言葉づかいや遊び方の工夫する。見学の学生も幼児になったつもりで一緒に指あそびを楽しみ、折り紙を折ったりお話を聞く。

全ての班の発表が終わってから教員が1班ごとのコメントをつける。発表時間の内訳（挨拶～導入、指あそび、お話しや、折り紙、絵かき歌）とそれぞれの評価できる点や注意点などである。

- ・発表時間の制限について、持ち時間10分を目安としているが、演目によっては10分を超えると予想される発表もある。演目を選択する際は指あそびに長い時間が必要であれば、折り紙やお話を時間がかからない演目にする、絵かき歌はレジュメ資料には掲載するが発表は省くなど学生と打ち合わせをしてリハーサルの時に所要時間を確認している。

実際の発表時に10分を超過しても原則そのまま最後まで発表させている。ただ、10分の時点で制止する場合がある。メンバー間の打ち合わせが不十分で発表の進行が度々止まったり、明らかに練習不足である実技レベルの場合は発表を打ち切らせ、次回再発表させる。再発表となるケースは近年はほとんどない。

- ・演目の選択について、一人ひとりがそれぞれ指あそびを始めすべての実技について3つ4つの候補を探してから、全員で演目を決めるという手順をとるように指導している。折り紙やお話し、指あそびを自分で調べて、楽譜もピアノで弾いてみて実際に歌えるか確認することなども事前学習であるからである。また、演目は他班と重複した場合に備えて第3候補まで考えておく。
- ・発表レジュメの作成について、事前に班の希望する演目を教員に届けて、他班と重複が生じないよう確認してから下書きをするという手順を指導している。毎年、授業の1回目にオリエンテーションをして印刷物を配布して説明しているにもかかわらず、演目の届け出と決定をしないまま先にレジュメを書いて教員に確認を求めてくることがあり、他班と演目がかぶっていればレジュメを全て書き直すことになる班もある。

同一コマ以外のクラスでは演目の重複は構わないこと、発表順番にかかわらず、演目は届けの早い順に決定することとしている。

- ・レジュメは印刷して1組～6組すべての学生に配布している。
- ・レジュメの内容の正確性について、楽譜に関して筆者は専門ではないので間違った箇所を訂正できていないものがある。事前の下書き段階でのチェックミスや、学生が清書時に間違えたものを見落としてそのまま印刷したものである。下書きのチェック時に音楽（ピアノ）の授業の先生に教えてもらうように指示するが、それを学生が清書する時に再度書き写し間違えていても、清書原稿を受け取った筆者が気づけないことがあり、この点については改善を要するところである。
- ・発表までの指導について、下書が終わったレジュメを持参して班の全員で演目ごとに動作や説明ができていないか1回目の事前指導を受ける。これを通称「リハーサル」と呼んでいる。1回目のリハーサルは動作の確認程度のものである。また10分間の構成（3つの演目の順番）・全体の流れ（最初の挨拶から最後の挨拶まで）を確認する。その後班全員で練習し、割り当てられた発表日の1週間前までに最終リハーサルを教員に見せてから授業で発表する。リハーサルは最短で2回で終わることもあるが、練習不足であればその演目だけ、例えばお話しだけ何回も行うことも多い。
- ・発表は3つの演目を原則4人全員で取り組むことにしている。折り紙では、折り見本を支える役、折り方の説明役、座席間を巡回して分からない学生に教示する役など。導入～指あそびを一人が、紙芝居を二人で、絵かき歌と終わりの挨拶を一人、計4人という分担では、全員が保育実技の練習を経験することにならないと考えたからである。

3. お話し（絵本・紙芝居）の演目～約22年前と15年前と現在～

お話しの題目（タイトル）と作者名を全て拾って表にまとめた。表1、表2-①、表2-②、表3-①、表3-②である。

レジュメの不備により作者名が書いていないものも多かったが、タイトルを検索して画像とレジュメの挿絵（絵本・紙芝居の表紙の絵を写していることが多い）を突き合わせて、確認できたものを載せた。しかしタイトルがヒットしないものが少数あり、作者名が空欄になっているお話しもある。

表は大まかにジャンル分けをして、日本の昔話・民話や童話、ヒット作のある絵本作家、あるいはその他、ヨーロッパの童話（グリム、イソップやアンデルセン）、有名作家やその他、民話・昔話などを計数した。また絵本と紙芝居を分けてみた。今回のジャンル分けはとりあえず大まかな傾向を掴むため、かなり恣意的な基準で分類しカウントしている。

表の右端欄「その他」とは、行事の説明に使うためのもの、防犯のために使うものなど、しかけ絵本、なぞなぞ・間違い探し、道徳教材など、ストーリー性のあるお話しではないものをまとめた。

表1に最初期（平成6年度平成7年度平成9年度）の3年分のお話しを示した．1組～6組の発表班の数は184班，お話しを発表した班（タイトル数）は25班である．日本のお話しが19タイトル，ヨーロッパのお話しが6タイトルであった．また絵本が5，紙芝居21であった．

表2-①、表2-②に1年生前期に実施した保育内容『言葉』の授業の最初の3年間（平成15年度16年度17年度）をまとめた。217班のうちお話を発表したのは76班である。日本のお話が55タイトル、ヨーロッパのお話が21タイトルである。絵本が37、紙芝居39であった。

「その他」にはエリック・カール作のしかけ絵本『はらぺこあおむし』が4カウント入っている。

表3-①、表3-②に最近の3年間（平成26年度平成27年度平成28年度）をまとめた191班のうちお話を発表したのが94班である。日本のお話しが69タイトル、ヨーロッパのお話しが25タイトルである。絵本が82、紙芝居12であった。「その他」はエリック・カールの『はらぺこあおむし』が3カウント、エリック・カール『パパ、お月さまとって』2カウント、防犯啓発の紙芝居1カウントであった。

表はいずれもタイトルをあいうえお順に並べ、3年間の発表演目として数を把握しやすくしたものである。

4. お話し（絵本・紙芝居）の演目の集計結果から考察できること

お話しの種類や内容、作家の内容や傾向を見るにあたり、学生が発表のために選んだお話しには筆者のバイアス（授業の実技発表として選んだものが適切か、など）がかかっていることが前提にある。また、学生はタイトルを主に短大図書館で探すので、絵本・紙芝居の選択は偏りがちである。蔵書の絵本や紙芝居、大型絵本の数は年々増えているが、それでもとんでもなく古い紙芝居などを選ぶ場合もある。この偏りを生む前提の指導について最初に説明する。

・お話し演目の選定について

アニメーションの絵本（セル画を印刷したもの、例えばディズニーアニメの絵本）は発表させていない。例外として、やなせたかし作『アンパンマン』シリーズや『バーバパパ』シリーズ、『チリンの鈴』などはオリジナルのキャラクターとストーリーを持つものは認める。

絵本・紙芝居には同じタイトルのお話しても作者（脚本）によって展開や結末が異なるものも多い。その最終形にディズニーアニメとして制作されたお話も多い。ディズニーしか見たことのない学生にはオリジナルの原話を知らない場合もある。本人がアニメを楽しんでいるだけならそれで充分であるが、保育者としてさまざまな年齢や発達段階の乳幼児に読み聞かせをする場合、教材の知識として不十分であり、それ以上お話しの世界を拓げられないと思われる。原話・原作を知ること必要であるからアニメ版やグリム童話、アンデルセン童話などの簡便なものを選択してきた場合は、まず原典を読んで別のバージョンを探すよう指導している。

- ・紙芝居について

紙芝居は日本独特の児童文化である。その特徴（特に場面数の少なさ、標準的なもので8場面、長いもので12～15場面。）から絵本以上に内容にバラエティがあり、集団保育の場で用いるために、決まりごとや行事、簡単な道徳教材に近い内容などもある。お話しの「読み聞かせ」という点からはいくぶん外れた内容のものを選んできたケースは演目を変更させている。特にお話しの結末部分で「○○だから仲良くしましょうね（ウソについてはいけません等々）」という安直な内容の教育紙芝居については筆者の個人的趣味で全て却下している。この手の紙芝居は古いものに多く、新作は本学図書館の所蔵にはあまり見当たらない。聞いている幼児も読み手もそこで思考停止となるようなお話しは『言葉』の実技発表としては読むだけ無駄と考えているからである。

・1, 2歳児対象の“初めての絵本”のように対象年齢の低いもの、百科事典系やカタログ絵本、しかけ中心に作ってある絵本は読み聞かせには向かないので演目として選ばせていない。

次に表に集計されたお話しのタイトルと作者を中心に傾向をまとめる。

作者とは文章の書き手を指す。絵と文の双方を一人の作家が制作している絵本・紙芝居も多い。一部は文章作家より絵の画家が著名である絵本もあるが、絵（画家）については今回言及しない。

表1で目につくことは紙芝居が多いことである。ただし資料が散逸して完全に揃っていないので確かに傾向があるとは言えない。

タイトル188番『やさいむらのうんどうかい』は平成13年でも取り上げられていて、ものは古いが内容的には現在でも使える紙芝居である。

タイトル192番『ニルスのふしぎなたび』はスウェーデンの女性作家の児童文学作品で、日本でさほどメジャーなお話しではない。1980年にNHKのアニメーション番組で連続放送されたDVDも発売されてるのでこれを選んだ学生は話しを知っていたと思われる。

表2と表3の傾向について

最近の3年間と13年前の3年間で大きく異なることは絵本と紙芝居の数である。最近では紙芝居の選択が極端に少ない(平成13年度～分は76タイトル中39であるのに対して、平成26年度～は94タイトル中12)。特に紙芝居を避けるような指導はしていないので、学生が“お話し”を、年長児向けのお話しを中心に探したとすると、紙芝居より絵本の方が出版点数は多いであろうことから、結果として紙芝居が少なくなったのではないかと推察できる。指導の際にあまり対象年齢の低いものは発表対象とはならないことを強調したことも理由にあると思われる。

日本の作家とそれ以外、主としてヨーロッパの作家の比率はほぼ同じである。(平成13年度～分は日本55タイトル、日本以外21であるのに対して、平成26年度～は69タイトルと25)。最初はグリム、アンデルセン、イソップやヨーロッパの民話(ペロー童話集にあるような『灰かぶり姫』や『三びきのくま』など)多様なお話しを取り上げてきたと予想していたが、結果としてはグリム童話かイギリス民話『三びきのこぶた』くらいなものであった。中間年度の資料を全て取り上げなければ正確な傾向は言えないが日本以外のお話しや児童文学に触れることが少ないからではないか、童話について体系的に調査する必要があると感じた。

一方著名な作家や小学校の教科書に採用されている作品、たとえばエリック・カール、レオ・レオーニなどは固定的な人気があることがわかる。

日本のお話しについては有名な人気作家のシリーズや昔話・民話、長編のものから簡便な紙芝居まで種類も多く、内容もバラエティに富んだ選択であった。今回は作家やジャンルについて件数を中心にまとめて概観したので、今後はなぜそのタイトルを取り上げたのか、理由を併せて検討し、傾向を詳しくまとめたい。授業のまとめと発表を振り返るレポートを課している(近年の分だけであるが)。その中でなぜその演目を選んだのか理由を書かせているので一部は把握できるかもしれない。

まとめと今後の課題

今までは絵本・紙芝居を選ぶ際、学生に制限をかけたり、範囲を限定した指示は出してこなかった。保育内容『言葉』の教材として「読み聞かせをするためにお話しを探してくる」という説明で自由に探させて、候補を持ってきた時に不適当である理由を伝えていた。教育的効果はあると思われるが、お話しを選ぶ際のポイントをもう少し詳しく学生に説明できるように、今回の結果を役立てたい。

表 1

番号	年度	タイトル	作者	世界の作家	グリム・インッ プ等	日本昔話	日本の童話	日本の作家	日本の新作	絵本・紙芝居	ヨ以外の民話	その他
174	9	2わのことり										1
172	9	3びきのくま	ロバート・サウジー	1	1							
184	6	3びきのくま	ロバート・サウジー	1						2		
181	7	アンパンマンとカレーパンマン	やなせたかし					1		2		
185	6	アンパンマンとばいきんまん	やなせたかし					1		2		
196	6	おかしなかいじゅうじま	木曾秀夫						1	2		
173	9	おつかさまのともだち	アンドレ・ラーファアン	1						1		
197	6	おばけのくのにのどろろんちゃん	しばはら・ち						1	2		
183	6	おべんとうのひ								2		
189	6	カラスの羽はなぜくろい？										
187	6	ぎざみみうさぎ	シートン	1						2		
178	9	きつねのおやことクレヨンおばけ	武井直紀						1	2		
182	7	子ざるのかげぼうし	浜田廣介						1	2		
186	6	しちごさん								2		1
175	9	しょうじょうじのたぬきばやし				1				2		1
179	7	しょうじょうじのたぬきばやし				1				1		
193	6	たべてみたいばいおほしさま	武蔵悦子						1	2		
177	9	とんでったいばりんぼ王さま	矢崎節夫						1	2		
192	6	ニルスのふしぎなたび	セルマ・ラーゲルレーヴ	1						2		
191	6	にんじんだいっきらい！	辻邦						1	2		
190	6	ぬすまれたパンキンバイ	田沢梨枝子						1	2		
180	7	ねずみのおもちつき	杉本由紀子			1				2		
		ピカランプはかせのニョキニョキス										
176	9	ブレー	広越たかし						1	2		
194	6	マコがおちたほらあな	わしおとしこ						1	2		
195	6	まちがえたみち	安田浩						1	2		
188	6	やさしいむらのうんどうかい	しばはら・ち						1	2		

表 2-①

番号	年度	タイトル	作者	世界の作家	グリム・インソ プ等	日本語話	日本の童話	日本の作家	日本の新作	絵本・紙芝居	ヨ以外の民話	その他
114	15	11 11 びきのねことぶた	馬場のぼる					1				
131	14	3 びきのくま	ロバート・サウジー		3					1		
149	13	3 びきのくま	ロバート・サウジー		3					1		
126	14	赤いボケツ	浜田広介					1		2		
147	13	赤いボケツ	浜田広介					1		2		
97	15	あしたえんそくだから	守屋正憲						1	1		
119	14	あったかいおしもの										
141	13	あなのなかのライオン	大川秀夫						1	2		
150	13	ありのえんそく	椎名三美枝						1	2		
163	13	アルド・わたしだけのひみつのとも		1						1		
145	13	アンパンマンとじょくばんまん	やなせたかし					1		2		
161	13	アンパンマンとばいきんまん	やなせたかし					1		2		
160	13	アンパンマンとばしぼしぼーん	やなせたかし					1		2		
99	15	いたいのいたいのとんで	平出衛						1	1		
165	13	うさぎたちのわ	レオ・レオーニ	1						1		
162	13	オオカミと七匹のこやぎ	グリム兄弟		1					2		
146	13	おだんごころ	坪田譲治				1			2		
155	13	おにがしまのどらがり	仲倉眉子						1	2		
100	15	おぼけのどろんどろんとぼこぼこ	若山憲					1				
103	15	おべんとうこわい	かつまたせつこ					1		2		
133	14	おべんとうのえんそく	矢玉四郎					1		2		
158	13	おべんとうのえんそく	矢玉四郎					1		2		
95	15	かくれんぼだぞ！にんじゃだぞ！	荒木昭夫						1	2		1
168	13	かみかみおおかさん	堀尾青史						1	2		
105	15	カメタはいいことかかんがえた	いとうひろし						1	2		1
166	13	きらわれたとら	久保幸					1		2		1
98	15	くいしんぼうのおおむしくん	榎ひろし						1	1		
156	13	くらげくんへんてこゆうびんやさん	山脇恭						1	2		
153	13	クリームパンダとSLマン	やなせたかし					1		2		
107	15	けんちゃんのでてるぼうず	松村正幸									
123	14	こぐまちゃんのみずあそび	わかやまけん					1				
110	15	こびとくつや	グリム兄弟		1					1		
124	14	こびとくつや	グリム兄弟		1							
169	13	サイのおともだち	高家博成						1	2		
152	13	さるとかに				1				2		
			ペテル・クリスティン・アス									
138	14	三びきのやぎ	ビョルセン	1						1		
112	15	しょうじきごうさん	松岡節			1				2		
151	13	しょうじょうのたぬきばやし				1				2		1
115	15	しんせつなともだち	ファン・イーチュン					1		1		
135	14	すてきなさんになぐみ	トミー・アングラー	1						1		
120	14	ぞうくんのおさんぽ	なかのひろたか						1			

表 3-①

番号	年度	タイトル	作者	世界の作家	グリム・インッ プ等	日本語話	日本の童話	日本の作家	日本の新作	絵本・紙芝居	ヨ以外の民話	その他
67	26	3 びきのこぶた			3					1		
80	26	3 びきのこぶた			3					1		
26	28	3 びきのやぎのガラガラドン	マーシャ・ブラウン	1						1		
69	26	アンパンマンとちびぞうくん	やなせたかし					1		2		
93	26	いいからいいから	長谷川義史					1		1		
11	28	いつもいっしょに	こんのひとみ						1	1		
76	26	いもころがし				1				2		
92	26	うどんくんとおそばちゃん	とよたかずひこ					1		2		
44	27	大きなかぶ	アレクセイ・トルストイ	1	3					1		
88	26	おきなこまでいえるかな	和歌山静子						1	2		1
48	27	おかえし	むらやまけいこ						1	1		
46	27	おこだでませんように	くすのきしげのり					1		1		
37	27	おさんギツネ	折口てつお			1				2		
61	27	おすわりくまちゃん	シャーリー・バレントン	1						1		
12	28	おちばいちば	西原みのり						1	1		
23	28	おトイレさびょうきになる	きたがわめぐみ						1	1		
86	26	おとなりさん	きしらまゆこ					1		1		
77	26	おにのこちそう	宮崎二美枝			1				2		
10	28	おぼけなでなさい	せなけいこ							1		1
82	26	おぼけのバーバパパ	アネットチゾン	1						1		
22	28	おひきまパン	エリサ・クレヴェン	1						1		
33	27	お月さまってどんなあじ?	ミヒヤエル・グレイニエック	1						1		
75	26	かめのえんそく	中谷靖彦		3					2		
74	26	カレライズがにげだした	しばはらち						1	2		
1	28	キャベツくん	長新太							1		
8	28	グリーンマントのピーマンマン	中村景晃						1	1		
87	26	ぐりとぐらとすめれちゃん	なかわりえこ					1		1		
89	26	ぐりとぐらのえんそく	中川幸絵子					1		1		
51	27	ぐりとぐらのおきやくさま	中川幸絵子					1		1		
29	28	ぐりとぐらのかいすいよく	中川幸絵子					1		1		
54	27	ぐるんぼのようちえん	西内ミナミ						1	1		
62	27	ぐるんぼのようちえん	西内ミナミ						1	1		
19	28	くれよんのくろくん	なかやみわ					1		1		
45	27	くれよんのくろくん	なかやみわ					1		1		
66	26	くろひげレストラン	西山直樹					1		1		
9	28	こんもりくん	山西ゲンイチ						1	1		
5	28	三匹のコブタのほんとうの話	ジョン・シェスカ	1						1		
7	28	すえっこおおかみ	ラリー・ディーン・ブリーマー	1						1		
83	26	ずっとだすきだよ	ハンスウィルヘルム	1						1		
16	28	せかいいちのおおきなうち	レオ・レオーニ	1						1		
17	28	そらまめくんのベッド	なかやみわ					1		1		
38	27	そらまめくんのベッド	なかやみわ					1		1		
59	27	そらまめくんのベッド	なかやみわ					1		1		
90	26	そらまめくんのベッド	なかやみわ					1		1		
40	27	たべたいのなーに?	穂高順也						1	2		
57	27	たまごにいちちゃん	あきやまただし					1		1		
70	26	たまごにいちちゃん	あきやまただし					1		1		

- 注1) レジюмеにはクラス、班の番号と学生の出席番号、氏名を書かせているが、本稿掲載にあたり個人情報に該当するもの、個人が特定される部分を消去してある。
- 注2) 保育実技習得のために取り上げた活動（遊び）について、この4種が最適かどうか、今回は検討していない。特に折り紙は『言葉』の中心的活動の一つとは言えないことは明らかであるが、集団保育の場で折り紙は多用されているので様々な折り紙を覚えることも必要だと考える。さらに保育の場で幼児に折り方などを説明する際、幼児が理解出来るように言葉づかいや折り手順を考え工夫することは『言葉』の学習としても適当である。また絵かき歌について、保育の場で意図的に遊ぶ場合は良くて年長児の活動に出てくるくらいであろう。小学校1年生で筆圧が弱い、鉛筆の握りが定まらない子どもに絵かき歌で楽しく遊びながら文字を書く練習の導入に用いる場合もある。しかし形や数などの見立てが中心で、素材が動物、乗り物や食べ物などであること、非常に短い時間しかかからないこと、歌って描く楽しさや出来上がりの意外性など指あそびと同じ特性も持っているので発表の一つとしている。

参考文献

- 1) 絵本のひみつ 余郷裕次 徳島新聞社編集局情報出版部 2010年
- 2) 保育内容シリーズ〈新訂〉子どもと言葉 岡田明編朋文書林 2008年

謝辞

本稿を書くにあたり、表の作成や写真資料の撮影、レイアウトなどについて内田豊海氏に多大な援助や助言を戴いた。またレジюме資料のカウントやほとんどの表の打ち込みには卒業生である木戸奈緒氏と2年生の新栞莉乃氏に助力いただいた。感謝の意を記すものである。

(2016年12月2日 受理)